

高等
小學

裁縫教科書

兒童用

下卷

裁縫
六
六
號 冊

43193

教科書文庫

4
920
32-1907
25980 09932

1940

1907



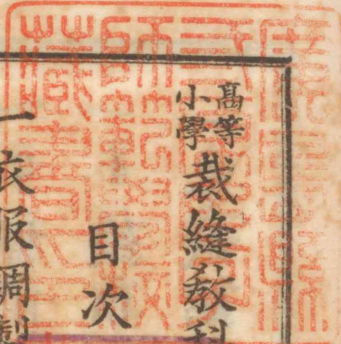
谷田部順子
小谷野千代子
合著

高等小學
裁縫教科書

東京
目黒書房
成美堂
合梓

高等
裁縫教科書
兒童用
下卷

東京
成美堂
合梓



高等
小學
裁縫教科書
兒童用下卷

目次

裁縫
和

部冊數

一 衣服調製に關する心得

一本裁單衣 女物

1 裁ち方積り方

2 仕立上げ寸法

3 標附け方

4 縫ひ方順序

5 肩當居敷當の仕方

一本裁單衣 男物

1 部分縫

No. 9932

2 裁ち方積り方 一八

3 仕立上げ寸法 一九

4 標附け方 二一

5 縫ひ方順序 二一

一衣服保存の方法 二二

一本裁裕 女物 二五

1 部分縫 二六

2 裁ち方積り方 二八

3 標附け方 二九

4 縫ひ方順序 三二

一本裁綿入 女物 三三

1 部分縫 三四

2 仕立方 三四

4 縫ひ方順序

三二

一本裁綿入 女物

三三

1 部分縫 寸法 三四

2 仕立方 寸法 三四

一子供帯 寸法 三五

一女袴各部の名稱 三八

1 裁ち方積り方 (中裁) 四〇

2 縫ひ合せ及び 寸法 四〇

襷取り方 寸法 四一

3 仕立上げ寸法 四二

4 縫ひ方順序 女物 四三

一洗濯及び張り物の 寸法 四〇

仕方 寸法 四四

一女腹合せ帯 四八

一羽織各部の名稱 五〇

一本裁綿入羽織 女物 五二

1 部分縫 五二

2 裁ち方積り方 五七

3 仕立上げ寸法 六〇

4 標付け方 六一

5 縫ひ方順序 六三

一小裁中裁羽織の裁ち方 六五

一本裁袷羽織 男物 六七

1 部分縫 六七

2 仕立上げ寸法 六九

3 票付寸法 七一

一本裁 衿羽織 男物

六七

1 部分縫

六七

2 仕立上げ寸法 六九

3 標附け方 七一

4 縫ひ方順序 七一

一 衣服と衛生との關係 七二

目次終

目次
一 裁縫の歴史
二 裁縫の材料
三 裁縫の道具
四 裁縫の作法
五 裁縫の縫い方
六 裁縫の縫い目
七 裁縫の縫い方
八 裁縫の縫い目
九 裁縫の縫い方
十 裁縫の縫い目

高等
小學
裁縫教科書
兒童用
下卷

高等小學裁縫教科書兒童用下卷

谷田部順子
小谷野千代子
合著

衣服調製に關する

心得

衣服を調製するには、左の
事柄に注意すべし。

一、氣候の氣候の寒暖によ
りて、地質、色合等の選
び方を異にせざるべから

二
ず、即ち、夏は地質、染色共に薄き物を用ひ、冬は之に反して、厚き地質、及び濃き染色の物を用ふるなり。

二、年齢 年齢によりて、色合、縞柄、模様等の選び方を異にす、即ち、幼者及び若き婦人は、華麗なるものを用ひ、年長くるに従ひ、次第に清楚せいそなるもの

を選ぶべし。又、男子は、女

子に比すれば、地質硬く、

のを用ひ年長くるに従ひ次第に清楚せいそなるもの

を選ぶべし。又男子は、女子に比すれば、地質硬く、且其の縞柄等も、細かき物を用ふるをよしとす。

三、場合 衣服は、其の用ふる場合によりて、地質、色合、形状等を異にす、即ち、儀禮には、多くは絹布類を用ひ、常著には、専ら木綿類を用ふ。又、其の色合、及び形状は、經濟上、及び、

便利上に適する様選ぶ

べし。

本裁單衣 女物の裏は本

裁ち方積り方

用布二丈八尺 裄は

裁ち切り寸法

袖丈一尺六寸

身丈三尺九寸

且衽下り五寸

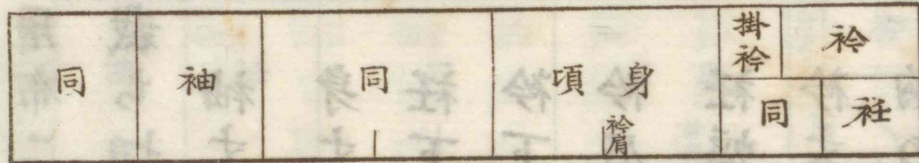
衽肩明二寸五分

衽幅四寸八分

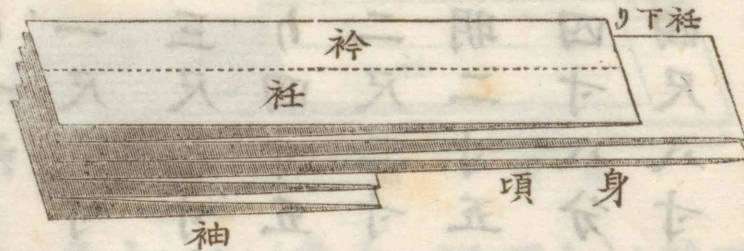
衽丈四尺七寸

丈
總

(衿棒)方ち裁裁本



衿丈四尺七寸



$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 4 + (\text{身丈} - \text{衿下り}) \times 2 = \text{總丈}$$

$$(\text{總丈} - \text{袖丈} \times 4 + \text{衿下り} \times 2) \div 6 = \text{身丈}$$

$$\{\text{總丈} - (\text{身丈} \times 4 + \text{衿丈} \times 2)\} \div 4 = \text{袖丈}$$

衿肩明二寸五分
衿幅四寸八分

本長身丈(袷)

用布二丈八尺(鉤縫)
裁ち切り寸法

袖丈一尺六寸

身丈三尺九寸六分

衿下り四寸五分

衿下二尺二寸五分

衿肩明二寸五分

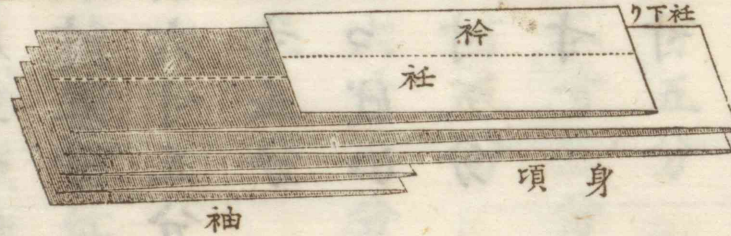
衿幅四寸八分

衿丈四尺八寸

鉤の切り込み七分

丈
=總丈
丈
丈

(衽鉤)方ち裁裁本



七 袖丈×4+身丈×4+(身丈-衽下り)+衽下=總丈
 {總丈-[袖丈×4+(衽下-衽下り)]}÷5=身丈
 {總丈-(身丈×5-衽下り+衽下)}÷4=袖丈

衽の切り込み七分

仕立上げ寸法

袖丈一尺五寸五分

袖幅八寸五分

袖口明六寸五分

袖附六寸五分

身丈いっばい

後幅七寸五分

肩幅八寸

前幅六寸

抱幅たか五寸五分

身八つ口三寸

本巻身寸法(附註)

衿下り六寸

任幅四寸

抱幅五寸五分
身八つ口三寸

衽下り六寸

衽幅四寸

合襖三寸五分

衽肩明二寸三分

衽幅一寸五分

衽一尺六寸五分

衽下一尺九寸

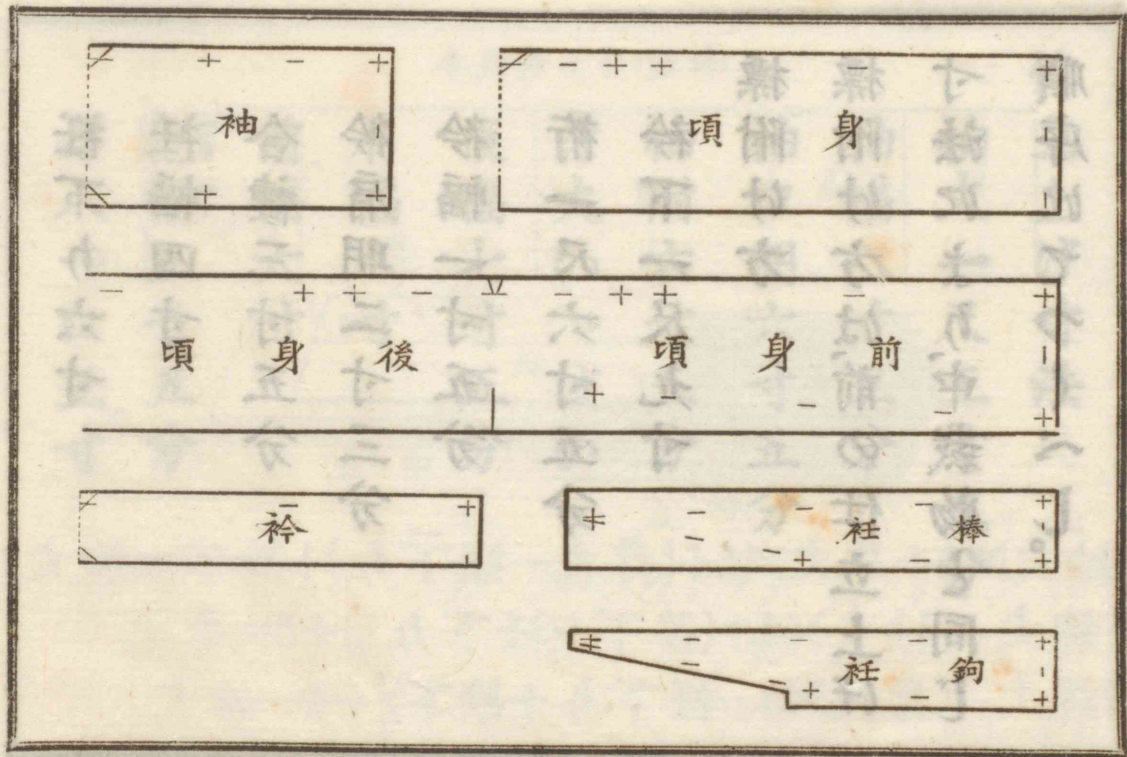
標附け方

標附け方は、前の仕立上げ

寸法により、中裁物と同じ

順序にてつくべし。

縫ひ方順序



+

縫ひ方順序

第一袖

第二脊縫

第三肩當かたあて居敷當しきあて

第四脇縫

第五衿下

第六衿附

第七裾掛

第八衿附

第九袖附

肩當、居敷當の仕方

肩當用布として、並幅長さ
一尺三寸のもの二枚を取
り、一方を一寸程長く、二つ
に折り、表の通り衿肩をあ
け、兩端を伏せ縫にし、脊縫
をなしたる後、長き方を後
身頃にあてて縫ひ、兩耳を
耳緋けにす。

居敷當用布として、並幅一
尺三寸位のもの一枚を取

り、下方を伏せ縫にし、縦に

二つに折り、裾より一尺二

居敷當用布として、並幅一尺三寸位のもの一枚を取

り、下方を伏せ縫にし、縦に二つに折り、裾より一尺二寸程上りたる處にあてて、脊縫に綴ぢ付け、三方を紵け附く。

本裁單衣

男物

部分縫

(イ) 袖 標附け方は、女物の通り、山丈、口明、人形、幅の標をつけ、次に、圖の如く、

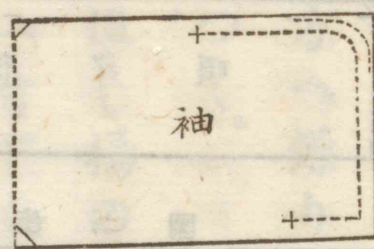


袂の處に、袖
 形を置き、丸
 みの標をつ
 く。
 縫ひ方は、表
 を見て一分の縫代にて
 縫ひ、(始め終りを五六分
 残し置く)次に裏を出し
 て標の通り左袖は袖口
 より、右袖は人形より縫
 ひ始め、袂丸の處に到ら

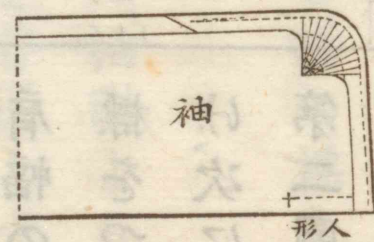


より、右袖は人形より縫ひ始め、袂丸の處に到ら

第一圖

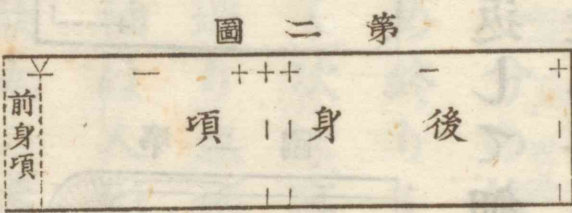
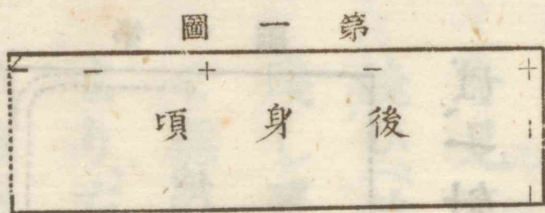


第二圖



ば、一針返して細かく縫ひ、此處縫ひ終らば、又一針返して女物の如く縫ひ、後、圖の如く丸みの處を縫ひ縮め、襞を整へ置くべし。

(口)揚 標附け方は、表を中
 にして二つに折り、後身
 頃を上、折り目を左に
 して置き、第一圖の如く、



山丈、袖
 附、後幅、
 肩幅の
 標をつ
 け、次に、
 第二圖
 の如く、

前身頃を五分、後身頃の

方へ繰り越し、場の標を



前身頃

第二圖

の如く

前身頃を五分、後身頃の
方へ繰り越し、揚の標を
つく。

但し揚の標は、袖附より
一寸下ぐるを普通とす。
縫ひ方は、先づ、後身頃の
揚を、幅標の一分先まで
縫ひ、次に、前身頃の揚を
縫ひ、何れも裾の方へ折
り返し、後脇の縫ひ込み
を、袖附の下より揚の處

まで開きて割躰をなす。

(八) 袖付け方 袖と身頃と

の山標を合せて待針を

打ち袖の方を稍緩ゆるめに

して袖附下と合せ袖に

て身頃を包み四つ留を

なし其の糸にて袖をつ

く。

裁ち方積り方

左の裁ち切り寸法により、

女物の通りに裁つべし。

裁ち切り寸法

左の裁ち切り寸法により、
女物の通りに裁つべし。

裁ち切り寸法

用布二丈八尺(裨衤)

袖丈一尺四寸五分

身丈三尺八寸五分

衤下り四寸五分

衤肩明二寸五分

衤幅四寸八分

衤丈四尺六寸

仕立上げ寸法

袖丈一尺四寸

袖幅八寸八分

袖口明七寸五分

袖附一尺二寸

人形二寸

身丈三尺六寸五分

後幅八寸 肩幅八寸七分

前幅七寸

抱幅六寸三分

衽下り五寸五分

衽幅四寸

合襖三寸六分

衽肩明二寸三分

衽幅一寸六分

行一尺七寸五分

合襖三寸六分
衿肩明二寸三分

衿幅一寸六分
衿一尺七寸五分
衿下一尺七寸五分
標附け方
標附け方は、前の仕立上げ
寸法により、女物と同じ順
序にてつくべし。

但し前幅衿附の標は、揚
の標を合せて待針をな
し、後其の上につくべし。
縫ひ方順序

第一袖 第二脊縫

第三肩當居敷當

第四揚 第五脇縫

第六衿下 第七衿附

第八裾掛 第九衿附

第十袖附

衣服保存の方法

衣服は巧に裁縫すべきは
いふまでもなく、又之を取
扱ふ上にも能く注意せざ
れば、衛生上、作法上にも適

はざるのみならず、いたく

不經濟となるものなり、

扱ふ上にも能く注意せざれば、衛生上、作法上にも適

はざるのみならず、いたく不經濟となるものなれば、左に其の心得を擧ぐ。

一、なま藏め方 衣服を脱ぎたる時は、暫時風通しよき處に掛け置き、汚れ汚點しみ等を檢べて後、皺しわにならざる様疊み、衿、紋等の處には紙を當て、衽、袖口などの壓せざる様、裾を入れ違へて藏め置くべし。

二、器具 藏むる器具は、桐の簞笥、長持等を良しとす。是れ、桐は外部の濕氣を内部に通さず、且軽くして持ち運びに便利なればなり。

三、置場 器具の置場は、空氣の流通能くして、日光の直接に當らざる處を選び、下に枕木まくらぎを挟はさみて、其の上に置くべし。

四、虫干 梅雨の頃は、雨多

選まぐらび、下に枕木まくらぎを挟はさみて、
其の上に置くべし。

四、虫干 梅雨の頃は、雨多
く空氣濕りて、衣服、器具
等に黴かびを生ずるを以て、
土用に至らば、晴天の續
きたる時を選び、衣服、器
具等を風通しよき處に
干すべし。
殊に、夜著蒲團の類は、屢
日光に曝さらすべし、之れ壺
に保存をよくするのみ
ならず、又、健康上にも大

なる利益あればなり。

本裁裕 女物

部分縫

袖 四つ身裕の如く標
を付け、袖口をかけ、袖下
の二三寸手前まで四つ
縫に、それより表裏別々
に縫ひ、次に、表裏の八つ
口を合せ待針をなし、袖
下の縫目より、兩方に縫
ひあげ躰をかく。

裁ち方積り方

下の縫目より、兩方に縫ひあげ躰をかく。

裁ち方積り方

表は、本裁單衣に同じ。

女物の裏は、普通には、胴裏どい

と、裾廻しすそまは

とを要す

るものな

れば、其の

裁ち方、及

び積り方

を擧ぐ。

方 ち 裁 裏 胴

同	袖	同	頃身	りえ	
				同	衤先 <small>のこり</small>

裾廻し裁ち方

同	後	同	前	衽 同	衽先 同
---	---	---	---	--------	---------

用布七尺五寸

裁ち切り寸法

裾丈一尺二寸

衽裾丈

二尺三寸

衽先四寸

積り方

表及び胴裏の總丈を知り

て裾廻しの總丈を求むる

法

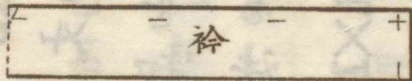
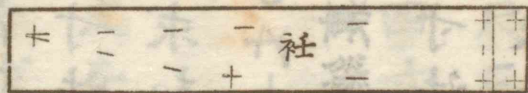
表總丈一胴裏總丈十衽×10
十縫代凡五寸=裾廻しの丈

て裾廻しの總丈を求むる
法は右詳しむる。

表總丈一胴裏總丈十衽×10
+ 縫代凡五寸=裾廻しの丈
表及び裾廻しの寸法を知
りて胴裏の丈を求むる法
表總丈一裾廻しの丈十衽×10
+ 縫代凡五寸=胴裏總丈
表及び裾廻しの寸法を知
りて胴裏の丈を求むる法
袖丈×4+ (表身丈一裾丈)×4
+ (表衿丈一衿先丈)十衽×10
+ 縫代凡五寸=胴裏丈
標附け方

袖は、部分縫の通り。

身頃は、表は、單衣の如く標
をつけ、裏は、胴裏うらの上に裾すそ
廻しまはを置き、胴接どぎの標を



つけ、表に準じゅんじて、山丈、袖附

身入の口、後幅、肩幅の標を

つけ、表に準じて、山丈、袖附、
身八つ口、後幅、肩幅の標を
つく。
但し裏丈は、表丈より衤の
二倍を長くすべし。
衤は、裏の衤先をはぎ、衤先
の方に折り返し、衤の二倍
出して表衤と合せ、裏を下
に表を上にして置き、單衣
の通り、丈、衤下、幅、合襖幅、衤
附、衤附の標をつけ、次に、表

を除き、裏衽に襷の標を附く。
衽は、裏衽に衽先の布を接ぎ、裏衽の方に折り返し、單衣の通り、表を中にして二つに折り、裏衽を下に表衽を上にして置き、山丈縫代の標を附く。
縫ひ方順序

第一袖口かけ方

第二袖 第三表脊縫

第四表脇縫

第五同接ぎ

第一袖口かけ方
第二袖
第三表脊縫

第四表脇縫
第五胴接ぎ
第六裏脊縫
第七裏脇縫
第八裾合せ
第九縦綴
第十身八つ口
第十一袖附
第十二襖
第十三衿附
第十四衿下縫
第十五衿
第十六横綴
本裁綿入 女物

部分縫

袖標は、一つ身綿入の通り、袖口衤の二倍だけ、表より廣くしておき、本裁裕の通りにつけ、次に、袖口をかけ、表裏の袖を縫ひ、裏袖口に含み綿をなし、表と合せて袖口下を四つ留にし、三分の針目にて紵け、其の糸にて袂の處まで綴ぢつく。

仕立方

裕の通り標をつけて、表裏

別々に縫ひ、裾を合せ、綿を

て袂の處まで綴ぢつく。

仕立方

袷の通り標をつけて、表裏
別々に縫ひ、裾を合せ、綿を
入れ、一つ身綿入の順序に
よりて、紵けつく。

子供帯
布の伸のび縮ちぢみを直し、表を
中にして二つに折り、真中
處々に待針を打ち、縫代淺
く假縫かりぬいをなし、次に幅及び
丈を定め、真中七八寸を殘
して、標の通り縫ひ、それよ

り兩端を縫ひ、五厘の著せ
にて烙こ鑊てをかけ、角をとち、
後心しんを入れる。

心しんの拵こしらへ方かたは、先づ布の耳
を平に裁ち落とし、次に、帶幅
に合せて裁ち切る。又、二枚
心しんの時には、一枚は帶幅だ
け、一枚は縫代の折り返し
だけひき、二枚綴ぢつくる
なり。

右の如く、裁ち切りたる心

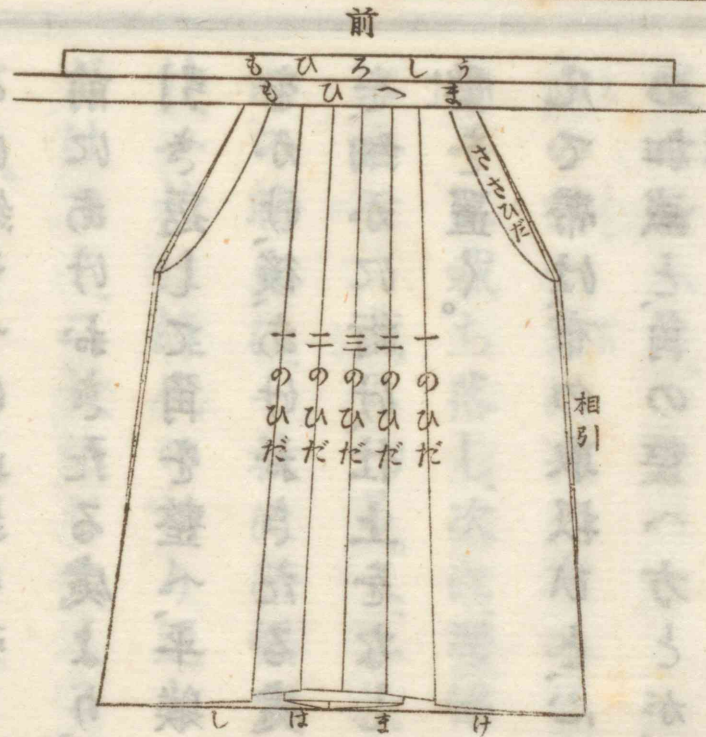
を、帶かほの上に載せ、稍、緩

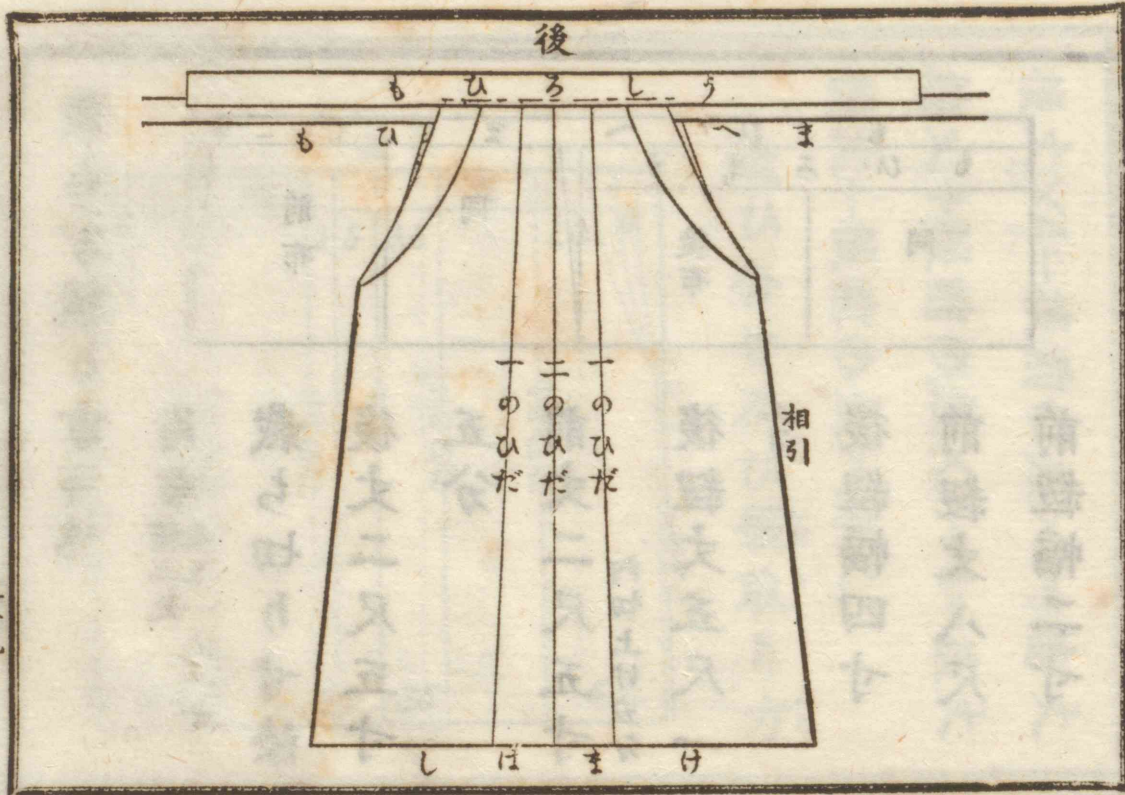
なり。
右の如く、裁ち切りたる心

を、帯かほの上に載せ、稍、緩
めに綴ぢつけ、真綿まわたを引き、
前にあけおきたる處より、
引き返して角を整へ、平襪
をかけ、後、あけおきたる處
を、細かに紵あしけ、仕上をなし
壓おしを置く。

凡て帯は、布の取扱ひと、心
の加減と、角の整へ方とが、
最も肝要なるを以て、能く
注意して仕立つべし。

女袴各部の名稱





一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

裁ち方積り方(中裁)

用布幅二尺
長さ一丈一寸

裁ち切り寸法

後丈二尺五寸

五分

前丈二尺五寸

内切上げ五分

後紐丈五尺一

寸

後紐幅四寸

前紐丈八尺

前紐幅二寸



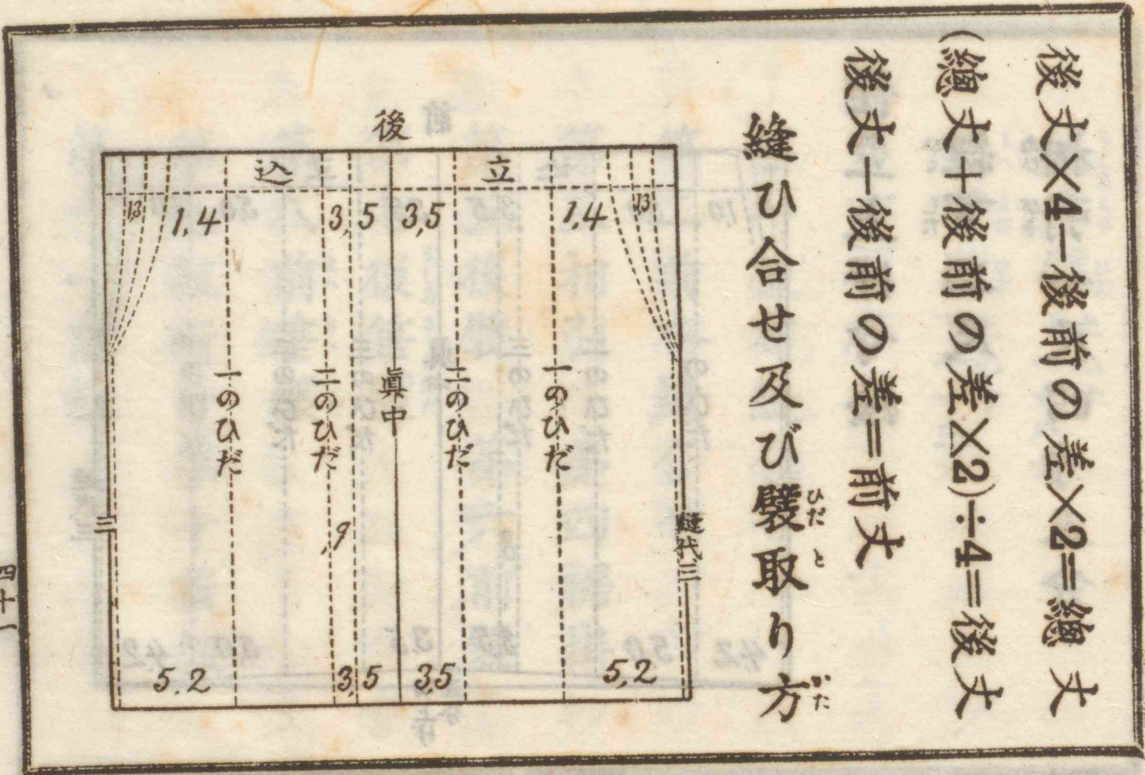
後丈×4-後前の差×2=總丈

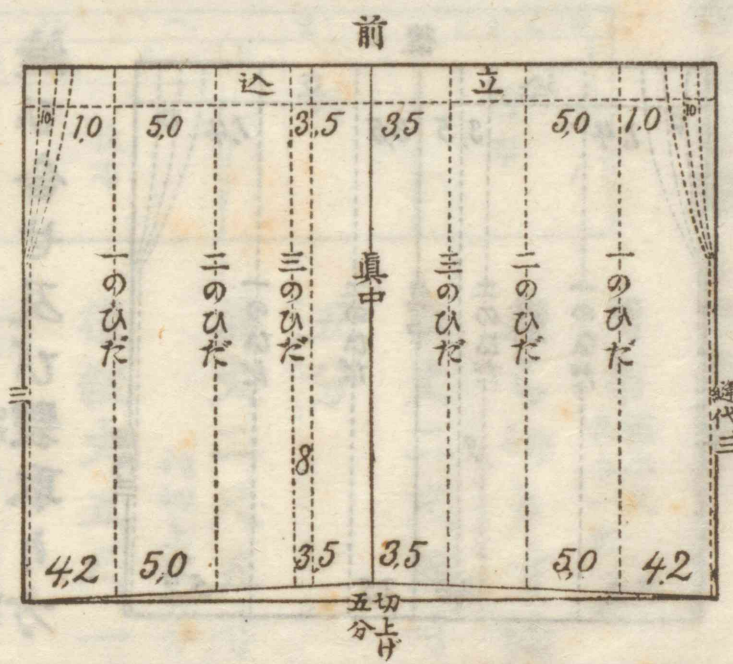
も
同

前紐丈八尺
前紐幅二寸

後丈×4-後前の差×2=總丈
 (總丈+後前の差×2)÷4=後丈
 後丈-後前の差=前丈

縫ひ合せ及び襷取り方ひたと





住立上げ寸法

紐下二尺

相引一尺四寸五分

後寄襷 上九分 下一寸八分

前子 上九分

紐下二尺
相引一尺四寸五分

後寄襷 うしろよせ ひだ 上九分 下一寸八分

前寄襷 まへよせ ひだ 上九分 下一寸三分

縫ひ方順序

第一後布縫合せ

第二前布縫合せ

第三相引の第四裾掛

第五後襷の第六前襷

第七後笹襷 うしろさ、ひだ

第八前笹襷 まへさ、ひだ

第九紐紵け第十後紐

第十一前紐

洗濯及び張り物の

仕方

衣服の汚れたるを、そのま
ま用ふる時は、大に健康を
害するのみならず、又、地質
を弱らすものなれば、常に
能く洗濯して、清潔にすべ
し。
洗濯は、其の品質によりて、
方法を異にす。即ち左の如
し。

一、綿布麻布の普通の物は、

方法を異にす。即ち左の如し。

一、綿布麻布の普通の物は、
洗前に學びたる方法にて
洗ひ、單衣類の白色のも
のは、飯糊めし、姫糊ひめをつけ、黒
色のものは、ふのり、つ
またを用ふ。又足袋類の
洗濯には、洗板あらひを用ふる
も可なり。

二、絹布 絹布を洗ふには、
布を板の上に載せ、手に
て揉まずして、刷子はにて

摩擦し、後、清水にて濯ぎ、
絞らずして乾しあぐべ
し。

三、毛布（毛布）を洗ふには、
暫時微温湯（微温湯）に浸し、石鹼
にて洗ひ、後、清水にて濯
ぎ、絞らずして乾しあぐ
ること、絹布に同じ。
張り物の仕方、前の如く、
洗濯せしものを縫ひ直す
には、左の張り方をなすべ

洗濯せしものを縫ひ直す
には、左の張り方をなすべ

し。

一、板張 板張をなすには、
先づ張板を能く拭ひ、張
るべき布の表を中にし
て糊に浸し、表を上にし
て、幅に不同なき様張る
べし。

二、簇張しんしばり 簇張は、先づ布を
接ぎ、兩端を木に結びて
長く張り、一尺おき位に
簇を掛け、裏よりふのり

を引き、更に間近く簇を
張りて乾し上ぐべし。

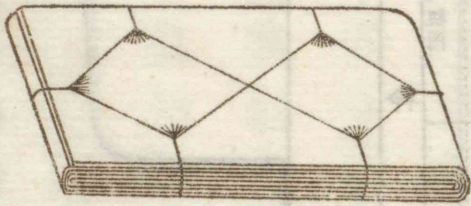
女腹合せ帯

子供帯の如く、布の伸び縮
みを直し、表を中にして二
枚合せ、真中及び兩側に假
綴をなし、幅及び丈を定め、
兩側をリキ一針抜きに、一方は
真中を一尺程残して縫ひ、
次に、兩端を半返しに縫ひ、
折をつけ角を綴ぢ、後子供

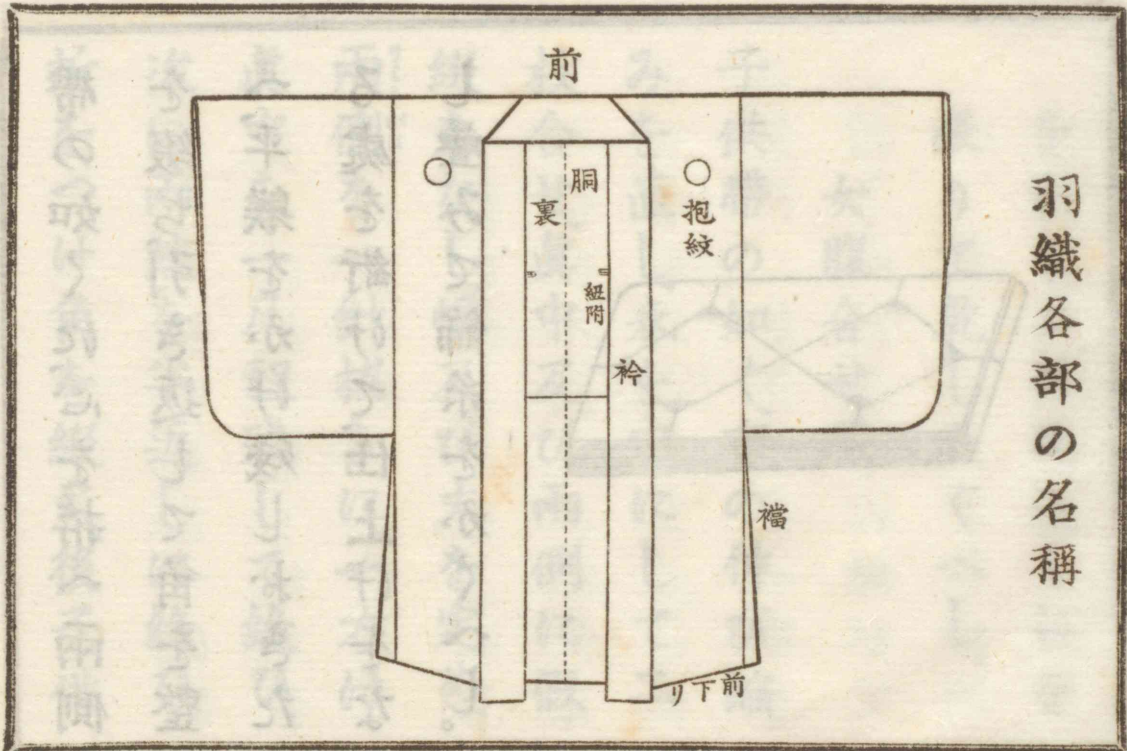
帯の如くに、心を拵へ兩側

次に、両端を半返しに縫ひ、折をつけ角を綴ぢ、後子供

帯の如くに、心を拵へ、両側を綴ぢ、引き返して角を整へ、平躰をかけ、残しおきたる處を紵けて、仕上げをなし、疊みて飾糸をかくべし。



羽織各部の名稱



前

○抱紋

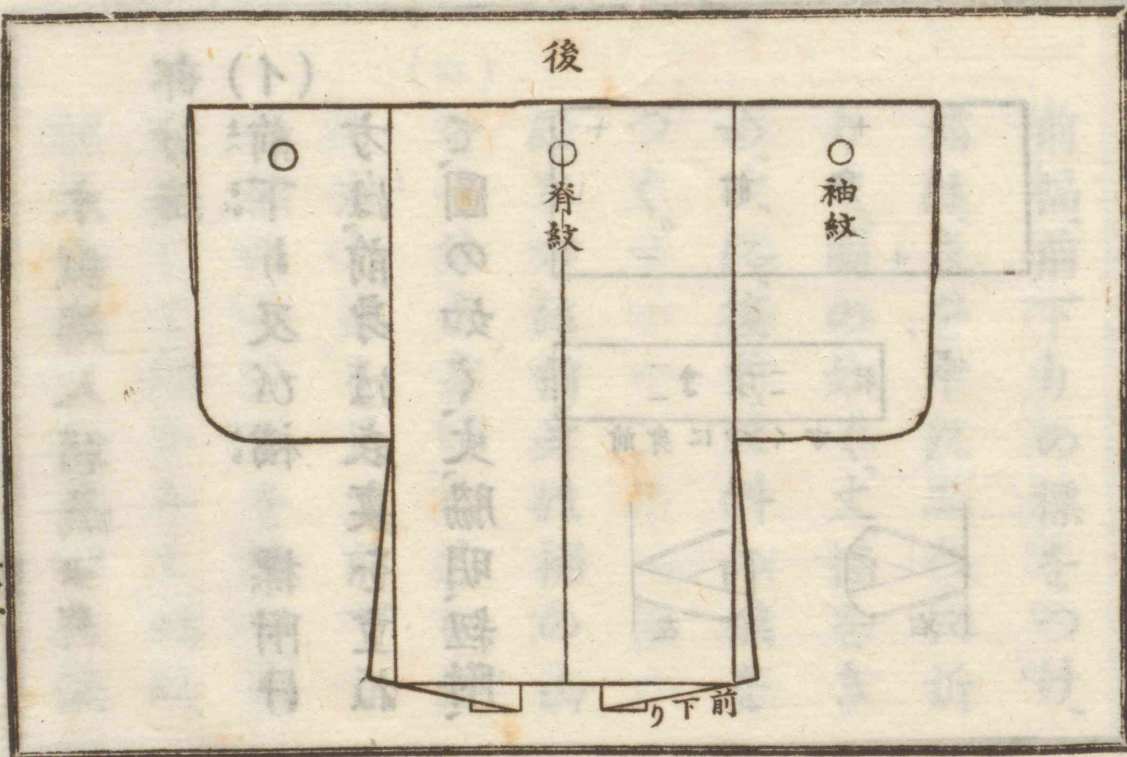
洞
裏

紐附

衿

襷

前下リ



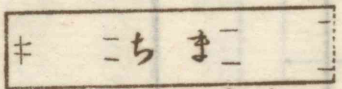
帯の取付方
 帯の取付方
 帯の取付方
 帯の取付方

本裁綿入羽織 女物

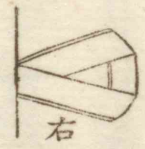
部分縫

(イ) 前下り及び襦まら 標附け

方は、前身は表裏を重ねて、圖の如く、丈脇明、紐附



方くつに身前

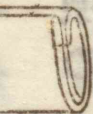


前幅、前下りの標をつけ

前幅、前下りの標をつけ、
襠は、表を中に二つに折
りて、圖の如く、丈幅をき
め、次に、後前に斜の標を
つく。
縫ひ方は、前身は裾の山
(口)を一分表身頃の方に繰
り越し、表を見て、前下り
の標の一分先を縫ひ、裏
に返して躰をかく。襠は、
標を合せて前身頃に縫

ひつけ身頃の方へ折り返して、平躰をかく。次に、衿附を綴ぢ、紐附を縫ひつく。

(ロ) 衿折り方は、表を下にして、衿幅の二倍に六分五厘を加へて、第一圖の如く、縦に折り、中になるべき布は、それより六分五厘をひきて、第二圖の如くに折り、次に、輪の方

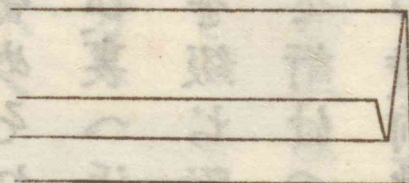


五厘をひきて、第二圖の如くに折り、次に、輪の方

第一圖



第二圖



第三圖



を三分五厘、耳の方を三分に折りてつけ、輪の方を五厘出して、更に二つに折り、第三圖の如く、山標、丈標、合標あひじろしをつく。
 衿の附け方は、衿の二枚

になりたる方を裏身頃の
の衿附の處に合せ、紐附
より上は、衿を稍緩めに
して待針を打ち、衿の方
を見て一針抜きに縫ひ、
紐附に到らば、二針程返
して能く留め、それより
衿先を縫ひ、裏へ返して
縫ひ込みを綴ぢ付け、合
標を合して紵けつく。
但し衿附の時、前身頃の

下の方、三寸程上より、自

標を合して紵けつく。
但し衿附の時前身頃の

下の方三寸程上より自
然に幅一分五厘程を縫
ひ込むべし。

裁ち方積り方

用布二丈八尺

裁ち切り寸法

袖丈一尺六寸

衿丈六尺二寸

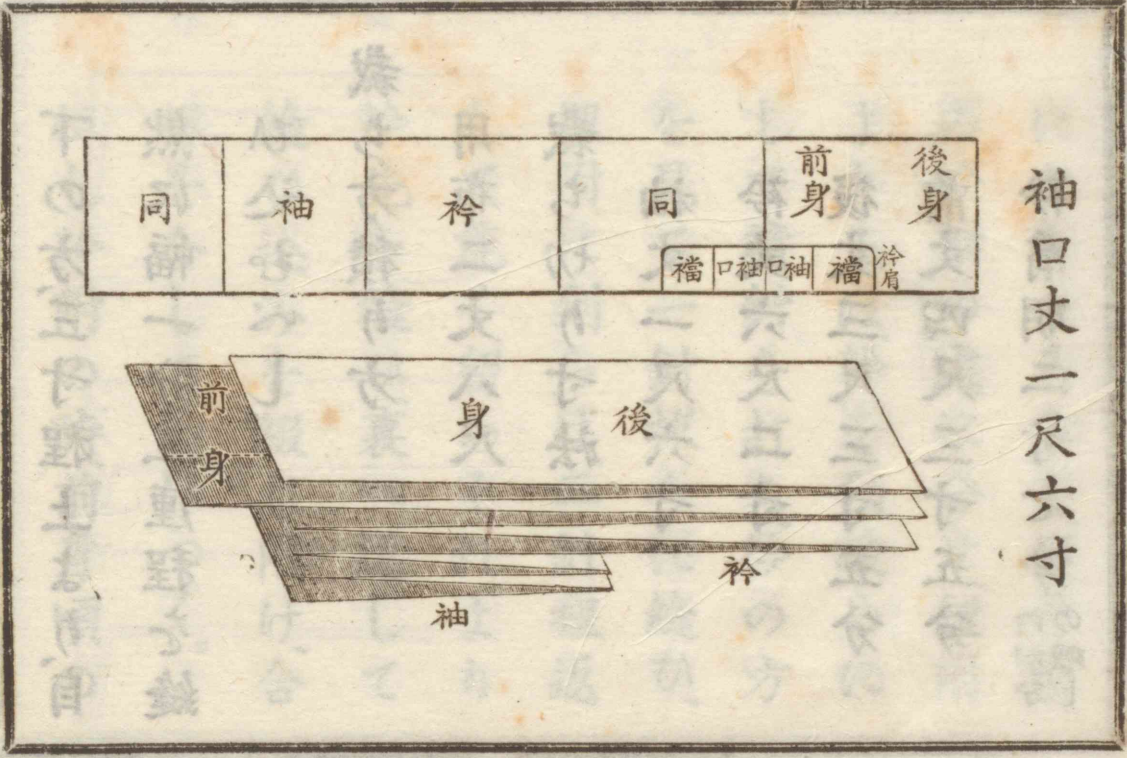
後丈三尺三寸五分

前丈四尺三寸五分

衿肩明二寸七分

内四分
の廻し

後丈及び袖丈を知りて總



袖口丈一尺六寸

同

前身

後丈及び袖丈を知りて總丈を求むる法

$$\text{(袖丈} + \text{後丈)} \times 4 + \text{衿丈} + \text{後前の差} \times 2 = \text{總丈}$$

總丈及び袖丈を知りて後丈を求むる法

$$\{\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{前後の差} \times 2)\} \div 4 = \text{後丈}$$

仕立上げ寸法及び表總丈を知りて裏地を求むる法

$$\text{一表總丈} = \text{裏地} + \text{袖丈} \times 8 + \text{身丈} \times 10 + \text{衿肩廻し} + \text{前下り} + \text{縫代}$$

仕立上げ寸法

袖丈一尺五寸七分

袖幅八寸六分

袖口六寸五分

袖附六寸六分

身丈二尺五寸

後幅七寸五分

肩幅七寸九分

前幅四寸八分

前下り一寸

身八つ口二寸五分

紐附八寸 肩より

前下り一寸

身八つ口二寸五分

紐附八寸肩より

衿幅一寸七分

襠幅一寸六分

衿一尺六寸五分

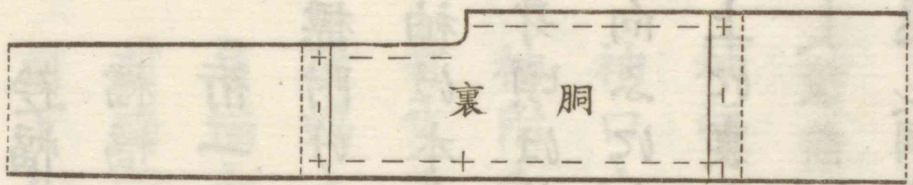
標附け方

袖は、本裁綿入に同じ。

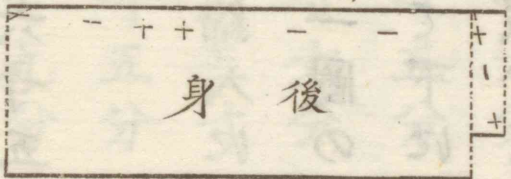
身頃は、第一圖の如く、脊を
向ふにして下に置き、其の
上に裏を載せて假綴をな
し、後前の丈を定めて折り
返し、胴接ぎの標をつけ、次

に、山標より二つに折り、第

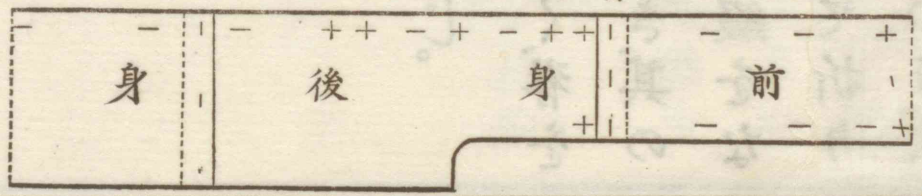
第一圖



第二圖



第三圖



に、山標より二つに折り、第二圖の如く、後身を上に、肩を手前にして、袖附、身の八つ口、後幅、肩幅、前幅、前丈、前下りの標を付け、後、後身を開きて、第三圖の如く、前身頃に紐附、及び衿附の標をつく。
襦、及び衿は、部分縫の通りに、標をつく。
縫ひ方順序

- 第一袖口かけ方
- 第二袖
- 第三胴接ぎ
- 第四脊縫
- 第五前下り
- 第六後襠
- 第七前襠
- 第八袖附
- 第九含み綿
- 第十綿入
- 第十一裾假綴
- 第十二衿附綴
- 第十二袖口紵け
- 第十四八つ口紵け
- 第十五衿
- 第十六縦綴

小裁中裁羽織の

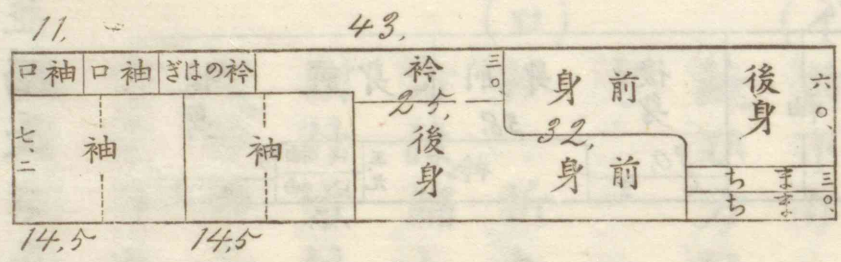
第十四 八つ口 紵ヌ 紵ヌ 紵ヌ
 第十五 衿カ 第十六 縦綴タテヅミ

小裁中裁羽織の

裁ち方

並幅長さ一丈
 四尺にて小裁

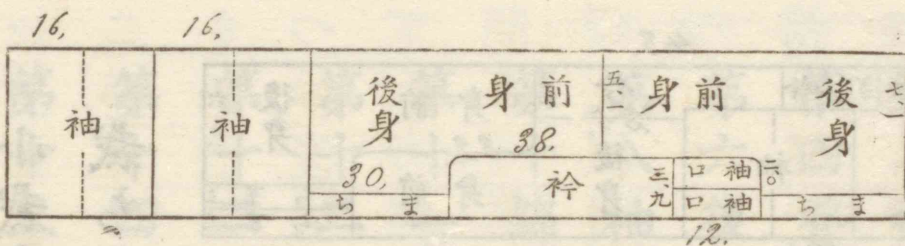
羽織の
 裁ち方



$$145 \times 4 + 25 \times 3 + 7 = 140$$

寸 後前の差

本裁袴羽織 男物



$$\overset{\text{寸}}{16} + \overset{\text{寸}}{30} \times 4 + \overset{\text{寸}}{8} \times 2 = 200$$

後前の差

並幅長さ二丈にて中裁羽織の裁ち方

16,



本裁袷羽織

男物

部分縫

- (イ) 前下り標附け方及び縫ひ方は、綿入羽織に同じ。
- (ロ) 衿折り方及び標附け方は、綿入羽織に同じ。附け方は、身頃の裏を見て、衿の二枚になりたる方を合せ、前身頃を三つ、或は、四つに折りて、其の

中に疊み込み、綿入羽織と同じく、紐附より上は、衿を稍緩めにして待針を打ち、肩より三寸程手前まで、一針抜きに四つ縫にし、此の處にて一針返し、これより裏の衿と身頃とのみを縫ひ付け、幅の折り込みを能く整へ、次に、明け置きたる處より引き返し、表の縫ひ

残りハ)を小針に紵けつく。

襠ハ)標附け方は、表を中

より引き返し、表の縫ひ

残りを小針に紵けつく。

(ハ) 襠 標附け方は、表を中

にして二つに折り、圖の

如く、丈、幅を定め、

次に、後前に斜の

標をつく。

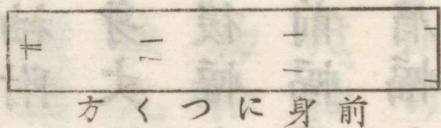
縫ひ方は、前襠を

前身頃にて包み、

一針抜きに四つ縫にす

べし。

仕立上げ寸法



袖丈一尺四寸二分

袖幅九寸

袖口明七寸五分

袖附一尺四寸二分

身丈二尺六寸

後幅八寸

前幅五寸三分

肩幅八寸五分

衿肩明二寸五分

(八) 衿幅二寸

紐附八寸

肩より

前下り一寸

(八) 衿幅二寸
紐附八寸 肩より

前下り一寸

襠幅一寸八分

衿一尺七寸五分

標附け方

袖は、袖附の標を除くの外、
女物衿の通りにて、それよ
り袂丸の標をつく。

身頃、襠、衿は前の寸法によ
り、綿入羽織と同じ順序に
て、標をつく。

縫ひ方順序

第一袖口かけ方

第二袖 第三胴接ぎ

第四脊縫 四つ縫

第五前下り第六衿附

第七後襠 第八前襠

第九袖附

衣服と衛生との關係

一、形狀 裁縫をなすには、
巧みに仕立上ぐべきは、
勿論なれども、又、人々の
身體恰好かつこに能くつり合

せて、狭からず寛ひろからぬ

勿論なれども、又、人々の
身體からだ恰好がうに能くつり合

せて、狭からずゆる寛からぬ
様作るべし、然らざれば、
童こどもに著き心こころあしきのみな
らず、身體を壓迫あつぱくして、健
康を害する恐おそれあればな
り。殊に、小兒の衣服は、其
の仕立ゆみやの寛かなるを要
す。

二、重量 衣服は、軽くして
暖かなるものを選ばざ
るべからず、殊に、老人小

兒病者等に於ては此の注意を要す、されば地質に於ても軽くして暖かなる、フランネルの類を選び、又綿の如きも、壓迫せる古綿等を用ひざるを良しとす。

三、染色 衣服の色も、亦大いに衛生上に關係を有す、即ち、黒、紺等の如き暗色のものは、最も多く温

を吸收することとは、前に

す、即ち、黒、紺等の如き暗色のものは、最も多く温

を吸収することは、前に
學びたる如くなれども、
又、濕氣、臭氣、及び傳染病
毒をも吸収し易く、白色、
及び其の他の鮮明なる
色は之に反す、されば衛
生上に於ては、暗色のも
のを用ひんよりは、白色
のものを用ひて、屢洗濯
するを良しとす。

又近來染料に用ひる藥

品中には、往々有毒のものあれば、是等の染料を以て染めたる衣服を著用するとき、は爲に健康を害ふおそれあるを以て、直接肌に著くる物及び小兒の衣服等は、最も其の選擇せんたくに注意すべきなり。

高等裁縫教科書 兒童用 下卷 終

明治三十六年三月八日
明治三十六年三月十二日
發行

高等裁縫教科書 下卷

高等裁縫教科書兒童用下卷終

明治三十六年三月八日發行
 明治三十六年三月十二日發行
 明治三十六年九月一日訂正印刷
 明治三十六年九月四日再版發行
 明治四十年五月二十三日版發行
 明治四十年五月廿五日版發行

高等裁縫教科書(卷下)
 定價金拾七錢

著者 谷田部

東京市麹町區
 一番町廿七番地

著者 小谷野千

東京市神田區
 小川町四十三番地

發行者 目黑甚七

東京市京橋區南傳馬町
 二丁目五番地

發行兼印刷者 河出靜一郎

東京市日本橋區
 通三丁目十番地

印刷所 三協印刷株式會社

東京市京橋區
 弓町二十四番地

東京市京橋區南傳馬町二丁目

目黑書店

東京市日本橋區通三丁目

成美堂書店

(電話本局二七七七番)

明治三十六年九月二十二日
 文部省檢定濟



不許複製

發行所

